

## ☆厳冬期山行

(共益事業)

- ・実施日：令和2年2月11日(月)
- ・山域：船形連峰黒鼻山(842,7m)
- ・コース：泉ヶ岳大駐車場⇒水神コース登山口⇒関口⇒(サビ川渡渉)⇒背尾根⇒黒鼻山山頂⇒(登路下山)⇒駐車場
- ・参加者：佐藤昭次郎、草野洋一、冨塚和衛、冨塚眞味子(以上会員)、山田孝司、多田孝之、佐藤富士子(以上支部友) 計7名
- ・報告者：佐藤昭次郎

最近の温暖化で、厳冬に相当する地域は北海道くらいかな？と、思えるほど近年はその進行を顕著に感じる。

今回 厳冬期山行の対象とする、「黒鼻山」普段はこの地の人気の山、「泉ヶ岳登山」の際背景となる山である、それだけ登山者が少なく雪と遊ぶには丁度いい山なはずであるが、この冬は記録的な暖冬と小雪で、仙台市民のスキー場であるこのスキー場は未だ開設していない。

この場所を集合場所として、7:45分にメンバーが揃う。

今回の行動計画と雪の状態からカンジキ携行を確認後、予定通り8:00時行動開始路面は未だ凍っているが積雪は無し、泉ヶ岳水神コースを入ると間もなく8:20分「関口」の表札板がある、この場所「堰」が正しいのでは？と思いながら、ここから分かれヒザ川を渡渉する、今年は昨日の入山者のトレースがそのまま残るほど雪が無い。

カンジキなしでコースを辿り、途中で休憩を入れながら尾根上の三叉路へ9:25分着、積雪は例年の半分もない。

ここで息を整え、あとは尾根上の樹林帯の中を25分、黒鼻山表札板が頭上の木にくくられている山頂着9:25分、記念写真を撮り、余りにも早い到着で下山して昼食することを確認後、休憩とした。



黒鼻山山頂

9:45分下山開始、時間がたっぷり今回ならではのコース取りの面白さを実感して頂くように、途中から麓の林道(宮城の自然歩道 泉区～青葉区定義)経由し、登山口に戻るコースに変え、厳しさの無いのんびりとした山行を参加者であじわい12:10分登山口に戻り施設食堂での昼食をしながら反省会を、冬季の体力維持を目的とした山行を終えました。